

広島藩のお抱え絵師

岡岷山の描いた江戸時代の湯の山温泉周辺を歩く

今から二百年あまり前の江戸時代中期、一七九七年の閏八月(新暦では十月中旬)のことです。

安藝の国広島藩の絵師、岡岷山(おかみんざん・びんざん)は藩主浅野重晟(しげあきら)公の許可を得て、都志見(つしみ)の駒が瀧まで、写生の旅をおこないました。藩に提出した「都志見往来日記」は旅日記風の旅行報告書で、「都志見往来諸勝図」には所要所所の絵が添えられています。

岷山は、駒が瀧だけではなく、途中の風景、特に湯来地区の風景を写生することも目的としたようです。「諸勝図」に四十枚の絵を載せていますが、そのうち湯来地区を描いたのは十五枚になります。中でも、藩主の祖父、吉長(よしなが)公が整備した湯の山温泉は重要な目的であったと思われる、わざわざ足を伸ばして、一泊しています。湯の山温泉を描いた「水内」は、見開き三連続の大作で、岷山の思い入れの深さが感じられます。「水内」の前は「和田村堂原」、後は「たらたら瀧」を描いています。さあ、湯の山温泉周辺にある江戸時代の道を歩いてみましょう。



「藝藩通史」和田村(部分)

「藝藩通史」(二八二五)

岡岷山の「都志見往来日記」から十八年後の、藩内にあるすべての村々の現況を伝えています。

湯の山コースは、菅澤村と和田村にまたがっています。それぞれの村の絵図は大まかに描かれていて、きちんとはつながらりません。そこで湯の山温泉が描かれていて該当部分も多い和田村の絵図を基にし、菅澤村に記載された地名を薄い赤色で書き加えました。図の上が北方向です。また、崩し字は読み下して活字にしました。

「江戸ゆきツアー」のコース

「江戸ゆきツアー」では、岡岷山がたどった行程を五つに分けて、それぞれ半日のコースとして設定しています。二時間の短縮コースもあるので、スケジュールや体力に応じて選択してください。



佐々木さん 守下さん

[発行・お問い合わせ]
「江戸時代から残る、湯来地区の古道を歩いてみようプロジェクト」
NPO法人湯来観光地域づくり公社
広島市佐伯区湯来町大字多田2545
TEL 0829-85-0670
HP: <http://e-yuki.net> 「となりの里山」

湯の山コース編

江戸の湯来を歩く

お伊勢参りが流行し弥次喜多道中が読まれた江戸中期に入浴客でにぎわった湯の山温泉
江戸時代の旅人になって歩いてみませんか

「江戸の湯来を歩く」

江戸時代から残る、湯来地区の古道を歩いてみよう

湯来地区には、広い自動車道路はありませんが、あちこちに小道が残っていて、のんびり歩くことができます。このような小道をテクテク歩いていると、これらの小道の歴史を知りたくなりました。このようないきさつから、私たちは、江戸時代からあった古道を復元する作業をはじめました。そのために使った資料は、「芸藩通志」(1825)の絵図や、藩主浅野家の御抱え絵師、岡岷山の「都志見往来日記」と「都志見往来諸勝図」(1797)、古老からの聞き取りなどです。こうして判明した江戸時代の街道について、みなさんに楽しく歩いていただけるルートを選んで、パンフレットを作成することにしました。湯の山コースは、第一段で、これからも続版を作っていく予定です。さあ、このパンフレットを片手に、江戸時代からの歴史がある、湯来地区の古道をのんびり歩いてみて下さい。



定価/100円



「都志見往来日記」和田村堂原



「都志見往来日記」水内1



「都志見往来日記」水内2



「都志見往来日記」水内3



【半日コース】

①の瀬地蔵
もとの道は伏谷川の川向こうにあつて、一の瀬地蔵も古道沿いであつた。明治時代に移動させ、地蔵像も新しく作り変えた。

②岷山休み石
このあたりで写生したスケッチをもとに、「和田村堂原」を描いたようだ。絵図は、高い場所から見下ろす構図になっている。

③水内川渡河場所
絵図に橋は無く歩いて渡つたのであろう。その後、板橋がかげられた。この橋は明治時代まで使われていて、多くの古老が聞き伝えている。

④堂原
この奥のお堂に修験者が籠り、左手遠方の岩山で修行していたと伝える。また、右手奥には、修行田という地名も残っている。

⑤番屋が原
藩の下級役人がつめる番屋があつた。藩の高札もここに掲げられた。罪人を処刑して晒し首にしたのも、この場所であつたという。

⑥観音堂
平安時代、菅原道真公が九州太宰府のほとりに造られた観音堂に安置されていたと伝えられる身の丈、二尺四寸二分の木造観音が祀つてある。

⑦親子観音
以前はヨガ道場の場所にあつたが、そこに公園を整備する際、現在の場所に移動させた。

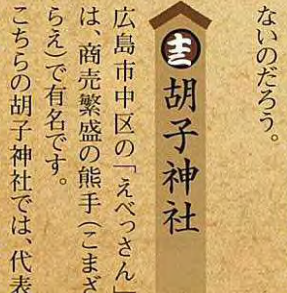
⑧胡子神社
広島市中区の「えべっさん」は、商売繁盛の熊手（こまざらえ）で有名です。こちらの胡子神社では、代表が広島から買ってきて配つたそうです。

⑨向吉の神社跡
現在、湯の山神明社の御神体になっている湯の玉は、岷山の時代には、平七の屋敷内の小社に祭られていた。岷山は見られなかった。

⑩蛭石
天神社に祭つてある。天神様のおかげでこのあたりの田んぼには蛭が居なくなつたと伝えられている。田が温かいので住めないのだから。

⑪たたらたらの滝
3段の瀧である。岷山は、下の瀧を登って千畳敷の平坦地まで到達している。切立つた壁を伝って水が流れ落ちていく。

⑫旧湯治場と社殿、岩田屋跡
湯治場は浅野吉長公はじめ、歴代の藩主の入湯した歴史をもつ。湯の山神明社も吉長公の寄進。3階建ての岩田屋は本陣となつた。



「都志見往来日記」たたらたらの滝